

インタビュー

㈱キョウデンプレジジョン
代表取締役社長

海老塚 隆 氏

基板メーカー大手の㈱キョウデン(東京本部)東京都品川区は、EMS(電子機器製品の製造受託サービス)事業の拡大に邁進する。2025年度までの中期経営計画



株式会社 キョウデンプレジジョン

のなかで、同事業の売上高を現行の2倍強にあたる200億円まで引き上

EMS、25年度に売上200億円へ

ユニット部門の成長に期待

げる。そのEMS事業の中核を担うのが㈱キョウデンプレジジョン(KPI、静岡県伊豆の国市)だ。同社の海老塚隆社長に、足元のビジネス環境や今後の事業戦略を聞き

た。国内生産回帰の動きは当面続くだろう。さらに当社が得意としている産業機器において製品の種類やライフサイクルが短くなっていることで、顧客にとってはEMS企業が存在価値が高まっている。あらゆる製品分野で旺盛な需要がきている。21年度(22年3月期)

注力する製品群や足元の市況を教えて下さる。海老塚 グループ内での基板製造ならびに、部品実装から製品組立までワンストップソリューションを展開できる点が当社の最大の特徴であり強みだ。さらに、小ロット品も積極的に受注ができるようにフレキシブルな

生産体制について。海老塚 三福工場ならびに狩野川工場の2拠点で、静岡県伊豆の国市に保有している。三福では実装ラインのほかメカ部品の製造を、狩野川ではユニット製品の組立工程を主に手がける。狩野川は22年11月に新棟を完成さ

せたばかりだ。家庭用ロボットのメンテナンスや組立工程も立ち上げるべく生産スペースを大幅に拡張した。生産能力として2.5倍に増強した。さらに、西日本での事業拡大を図るために和歌山県紀の川市内に工場を新設する。新工場では主に実装ラインを導入する。関連投資額は約20億円で、操業は23年4月を予定する。親会社で基板を製造するキョウデン・大阪事業所(大阪府泉大津市)にも近く、相乗効果を期待したい。

海老塚 あるロボットベンチャー企業と提携して、同社のロボットの製造受託の受注を見込む。すでに狩野川工場内に専

用には、もともとキョウデン長野本社工場および横浜工場を持っていた実装ラインをKPIに全面移管し、集約した。現在、従業員は400人強を擁している。

の売上高は約90億円を達成した。22年度も足元は堅調で、前年度比2割増の108億円を目指す。25年度には倍増の200億円へ引き上げる。特に

海老塚 コロナ禍によるサプライチェーンの混乱もあって、国内でのものづくりの機運が高まっ

た。国内生産回帰の動きは当面続くだろう。さらに当社が得意としている産業機器において製品の種類やライフサイクルが短くなっていることで、顧客にとってはEMS企業が存在価値が高まっている。あらゆる製品分野で旺盛な需要がきている。21年度(22年3月期)

海老塚 将来的には特にユニット製品の生産能力をさらに強化したい。

海老塚 将来的には特にユニット製品の生産能力をさらに強化したい。

海老塚 将来的には特にユニット製品の生産能力をさらに強化したい。

海老塚 将来的には特にユニット製品の生産能力をさらに強化したい。